

2 水田耕作のはじまり

過去の調査により、宝田遺跡では平安時代（9世紀）から水田耕作が行われたことがわかっています。今回の調査においても、平安時代より深い地層から遺構を検出していません。したがって、宝田遺跡周辺ではじめて水田が開発されたのは、現在のところ平安時代と考えられます。

本格的な調査はこれから行いますが、部分的な調査を行ったところ、佐渡島小泊（旧羽茂町）で焼かれた9世紀後半の須恵器が出土しました。これは、越佐海峡を渡って、柏崎にやってきたものです。越佐海峡から佐渡産の須恵器が多数引き揚げられており、多くの沈没船が眠っています。



佐渡島小泊産の須恵器（長さ6.6cm）

3 鎌倉～室町時代の水田

平安時代に水田が開発されて以降、しばらくの間、大規模な洪水は発生しておらず、安定した時期が続いたようです。出土遺物の年代から、鎌倉時代（13世紀）、室町時代（15・16世紀）に水田が断続的に築かれた可能性が高いと考えられました。

特に、室町時代に築かれた水田は、水路の整備や水田の規格性が認められ、生産性の向上を推測することができます。水田の区画は、1辺10～15mほどの四角形に整えられ、方位はおおむね東西南北にそろえられています。



鎌倉～室町時代の遺物（木札の長さ20cm）



宝田遺跡の水田関連遺構（2016年度調査範囲）